

## 第8回学生観光論文コンテスト（賞金総額100万円） 審査委員長総評と受賞者の声

### 1. 審査委員長総評（石川 尅巳 株式会社ジェイティービー 元常勤監査役）

審査委員を代表して、第8回学生観光論文コンテストの総評を述べさせていただきます。今回、全体で41大学・2専門学校より合計94編の応募をいただき、そのうち7編を最終審査させていただきました。

現在、わが国においては、産学官連携のもと東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の訪日外国人旅行者4,000万人を目指した様々な取り組みなど、観光立国実現のために邁進しているところであり、学生の皆さんの観光産業への関心も更に高まっているものと思われまます。

さて、今回のコンテストにおいては、7編の論文が最終審査に進んでおりますが、例年同様に学生らしい生き生きとした論文が目立ち、審査委員一同、順位をつけることに苦勞いたしました。そして厳正なる審査の結果、コンテストの最高の賞である最優秀賞1編並びにそれに次ぐ優秀賞2編を選出致しました。

尚、一次審査も含め審査の過程において、以下の3点については審査委員の方々から意見として出された事項でありますので、今後の論文の執筆等において参考にして頂きたいと思ひます。

一、学生らしい発想をもって、テーマについて仮説を立て、その調査については現地に赴き実施し、その調査データを基に、結論を導き、実現可能な提案で締めくくるような論文構成を心掛けて頂きたいということ。

二、論文本文の内容に、誤った認識のまま記述されている文章が散見されましたので、専門書籍や先行研究論文等を精読して正しい知識を得て、理解をした上で執筆して頂きたいということ。

三、実施した現地調査等のデータに信憑性が欠けるものがありましたので、正しい調査結果として論文に記載できるかどうか、十分に精査頂きたいということ。

以上のような審査過程を踏まえ、今回は、最優秀賞（観光庁長官賞）として、相模女子大学 学芸学部4年 北村里奈（きたむらりな）代表がまとめたテーマA『日本における多文化共生の食文化への対応～食のコミュニケーションツールでホッと（HOT）快適な日本に～』、優秀賞（公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞）として、横浜国立大学 経営学部3年 山崎正弘（やまざき まさひろ）代表がまとめたテーマB『伝統工芸品から考える魅力的な地域づくりのあり方～お稽古産業の活性化を通して～』、同じく優秀賞（一般社団法人全日本シティホテル連盟会長賞）として、琉球大学 観光産業科学部4年 屋比久可南子（やびく かなこ）代表のテーマA『地方も都市も見る観る向上プロジェクト～留学生モニターツアーを活用した地域振興策の提案～』の3点を選出されました。受賞者の皆さん、本当におめでとうございます。

これからも引き続き学生の皆さんの刻苦勉勵を期待します。

最後になりましたが、第8回学生観光論文コンテストを無事に開催することができましたのも国土交通省観光庁をはじめとする各種団体の皆様のご支援とご高配の賜物と深く感謝し厚く御礼申し上げます。

以上

2019年2月19日

## 2. 受賞者の声

- 1) **最優秀賞【観光庁長官賞】**: 相模女子大学 学芸学部 英語文化コミュニケーション学科 小泉ゼミ 4年 北村 里奈・代表・小此木 玲奈、テーマA『日本における多文化共生の食文化への対応～食のコミュニケーションツールでホッと (HOT) 快適な日本に～』

このたびは、最優秀賞【観光庁長官賞】にご選出いただき、誠にありがとうございます。

このような栄誉ある賞をいただき、メンバーおよびゼミナール一同大変光栄に思っております。また、大学4年での受賞ということもあり、大学生活を有終の美で終えることができました。

本論文作成は、本大学と産学連携を行っている中日本エクス様から、ハラル食について調査依頼を受けたことがきっかけでした。知識がない状態から始まりましたが、特別食を扱っている飲食店へ調査に伺ったことで、日本には宗教上で食に制限のある方や、アレルギーを持った方、ヴィーガンの方など、いろいろな方が共存していることがよく分かりました。しかし、日本では宗教や特別食に関する意識はまだ薄いと思います。今回の私たちの提案で少しでも問題意識をもって、次のステップにつながれば幸いです。

私たちは4月から社会人になります。今回の経験をもとにインバウンドの方が来やすい環境整備にいかに関わっていくか考えて働き、日本の観光立国化に貢献していきたいと思っております。

最後に、本論文の作成にあたり、たくさんの方々に支えていただきました。ご協力いただきました中日本エクス様、ご指導いただきました小泉京美教授、このような機会を与えて頂きました日本ホテル教育センター様ならびに関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。

- 2) **優秀賞【公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞】** : 横浜国立大学経営学部 大沼ゼミ3年 山崎正弘-代表・加藤春乃・加藤綾華、テーマB『伝統工芸品から考える魅力的な地域づくりのあり方 ～お稽古産業の活性化を通して～』

この度、第8回学生観光論文コンテストにおきまして、私たちの執筆した論文が公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞をいただけましたこと、チーム一同大変光栄に感じております。

今回私たちが論文を執筆するにあたり特に考慮した点は、「ナショナルトラストだからできること」でした。私たちは日本の文化である伝統工芸品に焦点を当て、伝統工芸品産業をナショナルトラスト活動を通じて支え、産地の魅力作りにつなげることをテーマにしましたが、具体的なナショナルトラスト活動として何が提案できるのか、非常に悩みました。そこで、「伝える」活動に着目して提案をしました。これまでのナショナルトラスト活動とは違う私たちの提案がどう評価されるのか不安はありましたが、結果として入賞できましたこと、大変喜ばしく感じております。また、私たちは今回実際に伝統工芸品について実地調査を行い、産地の方々にインタビューをしたことで、これまでの伝統工芸品に対する見方が大きく変わり、伝統工芸品に対して非常に魅力を感じるようになりました。私たちと同世代の人々には私たちのように、日本の素晴らしい伝統工芸品という文化に関心を抱いて欲しいと願うと同時に、私たちの論文がそのきっかけになれば幸いです。

最後になりますが、このような素晴らしい賞を受賞できたのは、鎌倉彫産業に携わっていらっしゃる方々やゼミナールの大沼先生や先輩、同級生など、多くの方々のご協力があったのもであります。この場をお借りして感謝の気持ちを述べさせていただきます。本当にありがとうございました。



2019年2月19日

- 3) **優秀賞【一般社団法人全日本シティホテル連盟 会長賞】**: 琉球大学 観光産業科学部 観光科学科 観光政策研究ゼミ  
 4年 屋比久可南子-代表・梶祐太郎・名嘉章吾・徳田真奈美、テーマA『**地方も都市も見る観る向上プロジェクト  
 ～留学生モニターツアーを活用した地域振興策の提案～**』

この度は、一般社団法人全日本シティホテル連盟会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。  
 今回私たちは大学生にとって身近な存在である留学生を対象とし、外国人観光客目線を取り入れた地域の観光振興に焦点をあて、論文を執筆致しました。今後さらなる訪日外国人観光客数の増加が見込まれる中で、私たちのアイデアをこのように評価して頂いたことをチーム一同大変嬉しく思います。  
 今回の受賞を糧に、卒業後も各々が社会に貢献できるよう、精進して参りたいと思います。  
 論文執筆におきまして、壁にぶつかることが多々ありましたが、最後までご指導くださいました下地芳郎教授をはじめ、ご協力いただきました皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。誠に有難うございました。

3. 今年度の応募学校名一覧 (順不同)

愛知学院大学・愛媛大学・桜美林大学・学習院大学・北九州市立大学・九州産業大学・共愛学園前橋国際大学・京都産業大学・京都橘大学・慶應義塾大学・國學院大學・駒澤大学・相模女子大学・産業能率大学・実践女子大学・上智大学・成蹊大学・高崎経済大学・中央大学・東海大学・東京大学・同志社大学・東洋英和女学院大学・東洋大学・獨協大学・長岡技術科学大学・新潟大学・二松学舎大学・日本大学・福岡大学・文教大学・法政大学・明治大学・安田女子大学・山口県立大学・横浜国立大学・立正大学・立命館大学・琉球大学・和歌山大学・早稲田大学・JTBトラベル&ホテルカレッジ・東京YMCA国際ホテル専門学校

4. 過去の応募論文数と学校数

1) 第1回	2011年度	論文数～33編	学校数～ 9大学・3専門学校
2) 第2回	2012年度	論文数～61編	学校数～28大学・2専門学校
3) 第3回	2013年度	論文数～62編	学校数～27大学・1専門学校
4) 第4回	2014年度	論文数～49編	学校数～27大学
5) 第5回	2015年度	論文数～45編	学校数～25大学・1専門学校
6) 第6回	2016年度	論文数～51編	学校数～25大学・1専門学校
7) 第7回	2017年度	論文数～76編	学校数～33大学・1専門学校
8) 第8回	2018年度	論文数～94編	学校数～41大学・2専門学校

以上